

#地球塾 2050

人を、想う力。街を、想う力。



「#地球塾2050」は、地球の未来をデザインする企業と、2050年に社会の中核を担う中学・高校生を結びます。



三菱地所執行役員 茅野 静仁さん

TOKYO TORCHが照らす 明るく、元気な日本

世界中で100年先を見越した街づくりを手がける総合不動産会社の三菱地所。東京駅前の大手町・丸の内・有楽町の街づくりに携わってきた歴史は130年以上になります。かつて江戸城の玄関口だった東京・常盤橋では、新たな街づくりのプロジェクト「TOKYO TORCH」を進めています。日本一高い390mのビル「Torch Tower」は2027年度に完成。世界へ、そして日本各地へとつながる東京駅前で、新たなシンボルが日本を明るく、元気に照らします。

Torch Tower 390メートル

3D化する都市で新たなイノベーションが生まれています。「TOKYO TORCH」で2021年に完成した212mの常盤橋タワー東側（東京駅の西側）は、諸国の大名屋敷でした。「丸の内」と呼ばれるこの場所には、約4300の事業所があり、約28万人が働いています。三菱地所のビルでは早くから二酸化炭素削減の取り組みを進めてきました。2025年度までにすべての電力が再生可能エネルギーになる計画です。丸の内は世界最先端の脱炭素エリアでもあります。



地球・自然と共生する都市

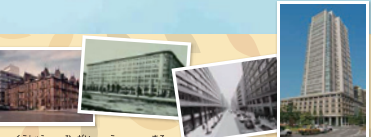
皇居とお堀は多様な生物の生育・生息場所です。この地区の豊かな自然を生き、ビルの屋上の庭でミツバチの「都市養蜂」が進められています。また、大手門タワー・ENEOSビルの地下には皇居のお堀の水浄化施設が設置され、水をきれいにしています。そして、自然災害の多い日本。三菱地所は、1923年の関東大震災をきっかけに、丸の内では1926年から毎年、防災訓練を行っています。ビルに入っている企業と東京消防庁も参加しての訓練は96回を数えます。

都市再生 × 地方創生

TOKYO TORCHから日本全国の地域の魅力を発信します。47都道府県の地域産品セレクトショップ「アナザー・ジャパン」では、地方出身の大学生たちが企画・経営・販売を担当し、東京から全国に元気を届けます。

再生繰り返す 江戸・東京

地方の藩主たちは参勤交代で常盤橋を渡りました。参勤交代によって江戸城下が繁栄しただけでなく、人の活発な動きで地方の都市、宿場町、港町も栄えました。



三菱社が丸の内に最初のオフィスビル「三菱一宮館」を建てたのは1894年。1923年2月建設の「丸の内ビルディング」は当時、国内最大のビルでした。同年9月の関東大震災も無事に乗り越えました。

2002年に建て替えられた丸の内ビルディング。再開発・超高層化の先がけとなり、丸の内は交流する街へ。

福島県会津地方の赤べこ

3D化する都市 こんなこと、できる?!

空中移動 屋上にドローンタクシーステーション

小水力発電 390mの落差の人工の滝で電力?

窓ガラスで太陽光発電 高い建物の広い外壁を活用

災害時の避難も安心

そっくり再現した仮想空間でシミュレーション

新潟県小千谷市のニシキゴイ



未来を提案する生徒たち



©isnadesign

前田千真さん (中学1年)

高層ビルの高い所で、雲から飲めるようなきれいな水を作り出す技術があったら、いろんなコストも削減できると思いました。地球塾に参加してイマジネーションがわきました。

中村りらさん (中学3年)

今はまだ現実ではないけれど、高層ビルの空中で、いろんな物をつくったり、いろんなことができたのではないかと想像してみるのとはとても面白かったです。